

東海女短大家政 ○小林政司* 増栄敦子

奈良女大家政 中川早苗 今岡春樹

目的 衣服における代表的な図柄としてストライプ柄をとりあげ、その方向と幅が外形的体型の視覚評価に対してどのような影響をおよぼすかを明らかにするために、標準刺激として1/2スケールの直立姿勢の人台（19歳女子標準体型）に無地（白、黒）およびストライプ柄（0.5, 1.0, 2.0 cm等間隔、等幅のたて縞、よこ縞）の衣服（長袖ワンピース）を着せ、これらの差異について検討した。

実験方法 被験者：18～20歳女子，短期大学生，20名程度 環境：温湿度調節を行った室内 光源：北窓の自然光 装置：130×130cm²の背景色（マンセル N6.5）パネルの中央部に0～60cmの幅で、たて、よこ独立に任意の一定速度で開閉する窓を設け、その内部に比較刺激となる長方形を色紙（N9.5またはN2.5）をはりつけたパネルで形成した。方法：人台とパネルの中心間距離を130cmとし、被験者を人台の中心とパネルの中心から3mの位置に着席させ、標準刺激と比較刺激との主観的等価点（PSE）は上昇系列の調整法を用いて決定した。

結果 無地の衣服については白色のものの方が黒色のものに比し面積の値が大きくなり、また長方形のよこに対するたての比（以後、比とする）は小さくなる傾向にあった。ストライプ柄の衣服についてはいずれのストライプ幅においてもたてストライプの方がよこストライプのものより大きな比の値が得られ、いわゆる「縞柄通説」を支持する結果が得られた。またいずれの縞方向の場合もストライプ幅が大きくなると面積の値が大きくなり、比は減少する傾向が認められた。（*現在の所属：光華女短大家政）